

# 「新しくされる恵み」

コロサイ3章13節

## ■ コロサイ3：13

『互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。』(コロ3：13)

## ■ 赦しの力

暑い真夏のある日、田中先生がドラムのレッスンがあり東京に行った時の話。レッスンが終わり移動する中でもらったレッスン代がなくなったことに気づいた。暑い中で、いくら探しても出てこないその状況に、そして自分に苛立ちが湧いてきた。しかし、妻にこの話をしたら帰ってきた言葉が「必要な人が拾ったのよ」。この赦しの言葉だった時、「この子のためにもっと頑張りたい」という気持ちになった。もし、赦しではなくそれが攻めだしたら言い返したくなっただろう。しかし、赦しの言葉があったから心が溶けてまた頑張りたいという心になった。赦しは人を変える力がある。

## ■ 主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。

ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。」イエスは言われた。「わたしは七回までとは言いません。七回を七十倍するまでです。(マタ18：21-22)

当時の律法も3回まで赦しなさいと書かれている。しかし、ペテロの質問にイエス様は7を70倍赦しなさいと言われた。これは無限に赦しなさいと言うこと。「主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい」、このことを例え話で話されたのが次の箇所。

天の御国は、王である一人の人にたとえることができます。その人は自分の家来たちと清算をしたいと思った。清算が始まると、まず一万タラントの負債のある者が、王のところに連れて来られた。彼は返済することができなかったので、その主君は彼に、自分自身も妻子も、持っている物もすべて売って返済するように命じた。それで、家来はひれ伏して主君を拝し、『もう少し待ってください。そうすればすべてお返しします』と言った。家来の主君はかわいそうに思って彼を赦し、負債を免除してやった。ところが、その家来が出て行くと、自分に首デナリの借がある仲間一人に出会った。彼はその人を捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。彼の仲間はひれ伏して、『もう少し待ってください。そうすればお返しします』と嘆願した。しかし彼は承知せず、その人を引いて行って、負債を返すまで牢に放り込んだ。彼の仲間たちは事の成り行きを見て非常に心を痛め、行って一部始終を主君に話した。

そこで主君は彼を呼びつけて言った。『悪い家来だ。おまえが私に懇願したから、私はおまえの負債をすべて免除してやったのだ。私がおまえをあわれんでやったように、おまえも自分の仲間をあわれんでやるべきではなかったのか。』(マタ18：23-33)

この僕は赦された。しかし、赦されたことを知らなかった。なぜなら自分の借金が、自分の罪がどれほどのものか知らないから。本当は命の限り返済しないといけない借金を帳消しにされた永遠の赦しを与えられたことを知らなかったから。これを私たちが知った時、それが私たちの喜びで、私たちは新しい生き方をしていく、変わることができる。そして、この赦された喜びを伝えていくものとなっていく。

## ■ 究極の赦し

右折禁止の道を右折してしまったら、警察は例外なく罰点と罰金を私たちに要求する。しかし神は私たちが赦してください。その赦しはこのようなものだ。

広島原爆ドームにあるあるアメリカ人が訪れた。原爆でたくさんの痛みを負っていることをみて心が痛み、彼はそこで出会った日本人のおじいちゃんに向かって自分たちを赦して欲しいと話した。しかしおじいちゃんから帰ってきた言葉は、「そんなことはもう忘れた!」。神はこのように私たちが赦された。もう忘れていたんだと言ってくださる。わたし、このわたしは、わたし自身のためにあなたの背きの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。(イザ43：25)

私たちは、相手が自分にした酷いことを忘れることが難しい。赦しますと言っても記憶している時点で本当の赦しにはなっていない。しかし、神の赦しは、どれだけその罪を主張しても、「もう覚えていないんだ。もう忘れてしまったんだ。」と言ってくださる。神は全てを知って、全てができるお方なのに唯一忘れるもの、イエスキリストの十字架で贖われた私たちの罪である。イエスキリストの純白な衣で覆われていて、私たちからは何のシミも傷も見出すことができずと神は言

## ■ ナイト de ライトの18年間

性格も何も全然違う4人で18年間バンドをやってきた。色んなことがあった。ただ気が合うとか、育った環境が似ているとかで続けられたものではなかった。お互いの限界、弱さ、もろさもみて、そして傷つき合いながらも、今まで本当に許しあってきた。それは、何かあったときに各々が神の前に出て、赦しを受け取って、解決を受け取ったからもう一回向き合うことができたから。もはや今は相手を変えようとも思わない。この関係は自分が好き好んで集まったわけではなくて、神が結び合わせてくださった関係。神が結び合わせた人は決して人が離してはならない。ナイライはお互い赦された喜びをお互い分かち合っ、この不思議な18年を過ごしてきた。そして、これからは御霊の一致で進んでいくと祈り合っている。

## ■ あっちゃんらない恵みの体験

大事なものは私たちは、お互いに赦しきれない、忘れきれない、そんな自分を、許してはいけない自分を神は赦してください。自分に気づかされる。自分にあっちゃんらない恵みを注いでくださる方がいる。人は年をとっていくにつれて身体的には徐々に衰えていくし、惨めに思えるかもしれない。しかし、このあっちゃんらない恵みが自分にあるんだということは徐々に自分の中に蓄えられていく。

田中先生がユースパスターをやってくる中で、変わって一緒に喜んで子もいれば、背いて離れてしまった子供もたくさんいた。自分は失敗したと、自分じゃなければ、離れずに教会に残っていたかもしれないという気持ちに縛られていた。しかし、ある集会でヤイロの娘が死んでしまった時、イエス様が言われた言葉「彼女は死んだのではない。眠っているのだ」を聞き、自分と離れてしまった子供達の間に関して語られた。死んだのではない。主に期待して将来に期待していくことができるんだということを受け取った。そして、こんなに全てを捧げて関わったのに何も身を結ばないような子供達を見るとがっかりしてしまった。しかし、ある方からまた気づかされた。「お返ししてくれなかった子が天に一番宝を積ませてくれた子ですよ」と。感謝だな!そして、自分がイエス様からどれだけ背いてきたかを思わされた。

このような神の恵み、これから主は何をなされるかわくわく期待している。

## ■ 神の恵みはあなたを新しくする

どんな過去があっても私たちは、あなたは全く新しくやっていける。ダビデは自分の役割に立たずに、女に気をたられ、人を死なせた。神はナタンを使わし、その罪に光を当てられた。ダビデを見捨てるのではなく、チャンスを与えてくださった。それにダビデは答える。ダビデはナタンに言った。「私は主の前に罪ある者です。」ナタンはダビデに言った。「主も、あなたの罪を取り去ってください。あなたは死なない。(サムII12：13)

神は告白したダビデの罪を取り除いてくださった。挙句に、パティシエバと結婚し、その子供ソロモンをエディディア、すなわち「主に愛されるもの」という名前まで与えられたほどに愛された。何という神の憐みでしょうか。でビデがしたことは悔い改めただけ。しかし神は彼を新しい生き方へと導いた。罪が示されることは神があなたを諦めてないという語りかけ、悔い改めはチャンスだ。赦しは、あなたの生き方を変えていく。だから、悔い改めることを、新しくされることを諦めないことが大事である。

もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちがすべての不義からきよめてくださいます。(ヨハII1：9)

さあ、来たれ。論じ合おう。主は言われる。たとえ、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとえ、紅のように赤くても、羊の毛のようになる。(イザヤ1：18)

(要約者:李雋英)

(2024年4月28日)